

ビオトープだより第26号

会員・BAより ビオトープに関する情報を提供します。

特定非営利活動法人
日本ビオトープ協会
<https://www.biotope.gr.jp/>

1. 境川遊水地公園のビオトープ管理について 個人会員・BA 佐藤 雄一

掲載の機会をいただきましたので私が勤めている境川遊水地公園のビオトープ管理について一部ご紹介させていただきます。

本公園は、境川の洪水被害を軽減し、県民の暮らしや財産を守るため整備された面積 26.1ha の都市公園で俣野遊水地・下飯田遊水地・今田遊水地の3つの遊水地によって構成されます。



境川遊水地公園 MAP

各遊水地の一部はビオトープとして管理がされており全体で約 8.8ha、湿地、開放水面からなる止水性の自然環境です（利用者の立ち入り不可）。また草地や花壇、芝生など管理頻度・手法が異なる多様な緑地も有し、これまで100種以上の野鳥、500種以上の植物が確認されました。



俣野遊水地ビオトープ
(令和5年2月撮影)

下飯田遊水地ビオトープ
(令和5年2月撮影)

今田遊水地ビオトープ
(令和5年2月撮影)



園内で確認された野鳥(左からタシギ、クイナ、キジ)



園内で確認された植物(左からタコノアシ、ミズキンバイ、ミゾコウジュ)

希少な湿生植物も確認されており
湿地環境の維持は欠かせません。
湿潤な土壌を保つため水みちを造成し
これらが生育しやすい環境にしました。



水みち造成(R5年2月)

3月下旬ごろに水みち造成箇所の植物の芽生え状況を確認する予定です。
土壌も良くかき混ぜました、どんな埋土種子が眠っていたのか楽しみです。

以下、公園情報です。

【住所】

境川遊水地公園 境川遊水地情報センター (神奈川県横浜市泉区下飯田町 5-5)

今田管理センター (神奈川県藤沢市今田 89-2)

イベント、自然情報等は HP、Twitter などでお知らせしております。

公園 HP : <http://kanagawa-park.or.jp/sakaigawa/>

公園 Twitter アカウント名 : 境川遊水地 シラサギのユウちゃん 【@SakaigawaYuchan】

2. ビオトープ提案・企画のヒント “バイオフィリックデザイン”

総務委員長・中四国委員長・主席 BA 梶岡 幹生

近年耳にする“バイオフィリックデザイン”について

《バイオフィリア効果 (Biophilia Effect)》

自然と触れ合うことで、ストレスが軽減され、集中力が高まり、心身が癒される効果のことを言います。バイオフィリアは、1984年にアメリカの生物学者エドワード・O.ウィルソンによって提唱された「人間には“自然とつながりたい”という本能的欲求がある」という概念のことです。

《バイオフィリックデザイン (Biophilic Design)》

都会においては、ビルに囲まれた空間での生活が当たり前になっています。

しかし、このような環境の中での生活や職場に於いては、知らず知らずのうちに生産性や創造性の低下につながります。これは、英国ロバートソン・クーパー社が行った研究で明らかにされており、自然の要素を取り入れたオフィスで勤務している人と、そうでない人を比較したとき、前者のほうが生産性は6%、創造性については15%高いという結果が出ています。こうした点から、オフィスにバイオフィリックデザインを導入することは、業務の効率化や質の向上につながるということがわかります。

三菱一号館美術館の庭園に見る自然庭園や壁面緑化、東京交通会館の屋上緑化なども、この効果を狙ったバイオフィリックデザインと言えます。

《バイオフィリックデザインの中にビオトープを》

つまり、普段から自然と触れ合うためには、意識的に自宅やオフィスなど、日常生活を過ごす場所に自然を取り入れる必要があるのです。

この時、単に庭園があれば良いと言うのではなく、人も含まれる生き物が、棲息できる生態系があってこそ、五感で感じる心地よいバイオフィリックであり、それが「ビオトープ」です。



居心地のよい自然環境（広島県庄原市）



新装したアンデルセン博物館 設計:隈研吾
(デンマーク・オーデンセ)

Photograph: Kengo Kuma & Associates, Cornelius Vöge,
MASU planning